

# けやきゼミナール teacher's 版 No.13



## ○ 理数学力、日本5位以内！ シンガポール1位

国際教育到達度評価学会（IEA）が2019年に実施した「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）」の調査結果が公表されました。世界の小4と中2にあたる学年を対象としたものです。今回の調査結果によると、我が国の算数・数学、理科の結果は、小学校・中学校ともに国際的に見ても引き続き高い水準を維持していること、前回2015年調査に比べ、小学校理科では平均得点が有意に低下している一方、中学校数学では平均得点が有意に上昇していることがわかったそうです。

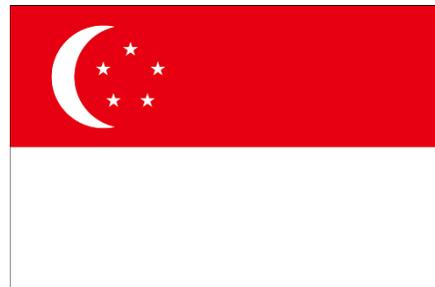
また、小学校・中学校いずれも、算数・数学、理科の「勉強は楽しい」と答えた児童生徒の割合は増加していること、小学校理科の「勉強が楽しい」と答えた児童の割合は、国際平均を



上回っている一方、小学校算数、中学校数学及び中学校理科の「勉強が楽しい」と答えた児童生徒の割合は、国際平均を下回っていることもわかったそうです。TIMSSは、4年ごとに実施され、1995年調査の国際平均を500点に設定し結果を比較できるように統計処理をしているとのこと。この結果で気になっているのは、シンガポールの結果です。

## ○ シンガポールの教育制度

シンガポールはご存じのように、マレー半島の先端にある小さな国で、海水の淡水化が出来ない時には水を隣のマレーシアから輸入していたような貿易国です。ストリーミング制度による能力主義とバイリンガル教育の組み込み等の要因から、シンガポールは高い教育水準にあると言われています。ストリーミング制とは、小中学校を卒業する段階で試験を受け、成績に応じてその後の進学するコースを決定する制度です。2008年に初等教育段階のストリーミング制は廃止されたものの能力主義の伝統は色濃く残っているとのこと。一方、シンガポールは国連の「障害者権利条約」について日本に先駆けて批准しています。急激な社会発展をとげるシンガポールにおいて、障害者に対する施策および、特別支援教育がどのように行われているか、また、教員養成や教員研修がどのように行われているかを知りたいと思いました。



令和2年度キーワード…「組織化」「共有・協働」「探究」「ユニバーサルデザイン」「チャレンジ」  
 CHALLENGE…各自の目標を見つけ、それに向かって自らの能力や適性を伸ばし、挑戦し続ける  
 INDEPENDENCE…民主社会の担い手として、優れた判断力と強い責任感を備えた人物を育てる  
 GLOBAL…国際社会の一員としての自覚を持ち、自国の文化や習慣を大切にすると同時に、他国の文化や習慣を理解できる人間に育てる